

効能・効果及び用法・用量比較一覧



ご注意
 ◎この一覧表の比較対象品は、自社品と同一剤型の製品のみであり、その他の剤型との比較は行っておりません。
 ◎この一覧表で比較している項目は、効能・効果及び用法・用量のみです。その他使用上の注意等詳細については各製品の添付文書をご参照下さい。

2020年10月28日更新

成分・含量	商品名	効能・効果	用法・用量
1袋100mL中、 エダラボン30mg	エダラボン点滴静注バッグ30mg「YD」 (陽進堂)	○脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善	(筋萎縮性側索硬化症 (ALS) における機能障害の進行抑制に関する用法・用量無し)
	ラジカット点滴静注バッグ30mg	○脳梗塞急性期に伴う神経症候、日常生活動作障害、機能障害の改善 ○筋萎縮性側索硬化症 (ALS) における機能障害の進行抑制	(筋萎縮性側索硬化症 (ALS) における機能障害の進行抑制に関する用法・用量のみ抜粋) ○筋萎縮性側索硬化症 (ALS) における機能障害の進行抑制 通常、成人に1回2袋(エダラボンとして60mg)を、60分かけて1日1回点滴静注を行う。 通常、本剤投与期と休薬期を組み合わせた28日間を1クールとし、これを繰り返す。第1クールは14日間連日投与する投与期の後14日間休薬し、第2クール以降は14日間のうち10日間投与する投与期の後14日間休薬する。
1錠中、 アリピプラゾール3mg、 6mg、12mg	アリピプラゾール錠3mg「YD」・錠6mg「YD」・錠12mg「YD」 (陽進堂)	○統合失調症 ○双極性障害における躁症状の改善	(うつ病・うつ状態に関する用法・用量無し) (小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性に関する用法・用量無し)
	アリピプラゾールOD錠3mg「杏林」・OD錠6mg「杏林」・OD錠12mg「杏林」 (キョーリンリメディオ)		
1錠中、 アリピプラゾール3mg、 6mg、12mg	エビリファイ錠3mg・錠6mg・錠12mg・OD錠3mg・OD錠6mg・OD錠12mg	○統合失調症 ○双極性障害における躁症状の改善 ○うつ病・うつ状態(既存治療で十分な効果が認められない場合に限る) ○小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性	(相違点のみ抜粋) ○うつ病・うつ状態(既存治療で十分な効果が認められない場合に限る) 通常、成人にはアリピプラゾールとして3mgを1日1回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、増量幅は1日量として3mgとし、1日量は15mgを超えないこと。 ○小児期の自閉スペクトラム症に伴う易刺激性 通常、アリピプラゾールとして1日1mgを開始用量、1日1～15mgを維持用量とし、1日1回経口投与する。なお、症状により適宜増減するが、増量幅は1日量として最大3mgとし、1日量は15mgを超えないこと。

成分・含量	商品名	効能・効果	用法・用量
1錠中、フルボキサミンマレイン酸塩25mg、50mg、75mg	フルボキサミンマレイン酸塩錠25mg「YD」・錠50mg「YD」・錠75mg「YD」 (陽進堂)	うつ病・うつ状態、強迫性障害、社会不安障害	通常、成人にはフルボキサミンマレイン酸塩として、1日50mgを初期用量とし、1日150mgまで増量し、1日2回に分割して経口投与する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減する。 (小児への投与に関する用法・用量無し)
	ルボックス錠25・50・75 デプロメール錠25・50・75		成人への投与： ・うつ病・うつ状態、強迫性障害、社会不安障害 通常、成人には、フルボキサミンマレイン酸塩として、1日50mgを初期用量とし、1日150mgまで増量し、1日2回に分割して経口投与する。なお、年齢・症状に応じて適宜増減する。 小児への投与： ・強迫性障害 通常、8歳以上の小児には、フルボキサミンマレイン酸塩として、1日1回25mgの就寝前経口投与から開始する。その後1週間以上の間隔をあけて1日50mgを1日2回朝及び就寝前に経口投与する。年齢・症状に応じて1日150mgを超えない範囲で適宜増減するが、増量は1週間以上の間隔をあけて1日用量として25mgずつ行うこと。
1錠中、ロスバスタチンカルシウム2.6mg、5.2mg (ロスバスタチンとして2.5mg、5mg)	ロスバスタチン錠2.5mg「YD」・錠5mg「YD」・OD錠2.5mg「YD」・OD錠5mg「YD」 (陽進堂)	高コレステロール血症	通常、成人にはロスバスタチンとして1日1回2.5mgより投与を開始するが、早期にLDL-コレステロール値を低下させる必要がある場合には5mgより投与を開始してもよい。なお、年齢・症状により適宜増減し、投与開始後あるいは増量後、4週以降にLDL-コレステロール値の低下が不十分な場合には、漸次10mgまで増量できる。10mgを投与してもLDL-コレステロール値の低下が十分でない重症患者に限り、さらに増量できるが、1日最大20mgまでとする。
	クレストール錠2.5mg・錠5mg・OD錠2.5mg・OD錠5mg	高コレステロール血症、 <u>家族性高コレステロール血症</u>	通常、成人にはロスバスタチンとして1日1回2.5mgより投与を開始するが、早期にLDL-コレステロール値を低下させる必要がある場合には5mgより投与を開始してもよい。なお、年齢・症状により適宜増減し、投与開始後あるいは増量後、4週以降にLDL-コレステロール値の低下が不十分な場合には、漸次10mgまで増量できる。10mgを投与してもLDL-コレステロール値の低下が十分でない、 <u>家族性高コレステロール血症患者などの重症患者に限り</u> 、さらに増量できるが、1日最大20mgまでとする。
1カプセル中、ナルフラフィン塩酸塩2.5μg(ナルフラフィンとして2.32μg)	ナルフラフィン塩酸塩カプセル2.5μg「YD」 (陽進堂)	血液透析患者におけるそう痒症の改善(既存治療で効果不十分な場合に限る) ※先発医薬品に認められている「腹膜透析患者」、「慢性肝疾患患者」への効能・効果は承認を有しない。	通常、成人には、ナルフラフィン塩酸塩として1日1回2.5μgを夕食後又は就寝前に経口投与する。なお、症状に応じて増量することができるが、1日1回5μgを限度とする。
	レミッチカプセル2.5μg ノピコールカプセル2.5μg	次の患者におけるそう痒症の改善(既存治療で効果不十分な場合に限る) <u>透析患者、慢性肝疾患患者</u>	

成分・含量	商品名	効能・効果	用法・用量
1錠中、 ファムシクロビル 250mg	ファムシクロビル錠 250mg「YD」 (コアバイオテックベイ=陽進堂)	単純疱疹 帯状疱疹	単純疱疹 通常、成人にはファムシクロビルとして1回250mgを1日3回経口投与する。 (再発性の単純疱疹に関する用法・用量無し) 帯状疱疹 通常、成人にはファムシクロビルとして1回500mgを1日3回経口投与する。
	ファムビル錠250mg		単純疱疹 通常、成人にはファムシクロビルとして1回250mgを1日3回経口投与する。また、再発性の単純疱疹の場合は、通常、成人にはファムシクロビルとして1回1000mgを2回経口投与することもできる。 帯状疱疹 通常、成人にはファムシクロビルとして1回500mgを1日3回経口投与する。
1錠中、 エゼチミブ10mg	エゼチミブ錠10mg「YD」 (陽進堂)	高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症	通常、成人にはエゼチミブとして1回10mgを1日1回食後経口投与する。なお、年齢、症状により適宜減量する。
	ゼチーア錠10mg	高コレステロール血症、家族性高コレステロール血症、 <u>ホモ接合体性シトステロール血症</u>	